

ブラームス ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品77 (1878年) のCDを聴き比べて一覧表にしてみた

◆作成者のひとこと……「ヴァイオリン協奏曲を一曲だけ選ぶとしたら？」と問われたとしたら、今の私なら迷わずこの曲を挙げる。熱い情感と深い精神性に満ち溢れると同時に、高度な技巧も楽しめる名曲である。季節の「秋」にも、「人生の秋」にもよく似合う曲。今年に入ってなぜか急速にCDが集まった。CDで音楽を聴く時代も終わりつつあるようだから、この機会にまとめておくことにした。こうしてCDになっているということは、いずれも名演奏であるということであり、たしかに優劣はつけがたい。ただ、極めて高い水準であるが、それぞれに特徴があることも確か。印象が強く残っているうちに、夏休みの自由研究のつもりで一覧表にしておくことにした。何かの参考になれば幸い。よろしければ、あなたの好きな曲(お薦めの曲)や、演奏について教えてください。2017年8月現在、グリムオー盤以外、入手は比較的容易。

2017年8月18日(金) 信州・上田仮説サークル 柳沢克央作成

ソロ・ヴァイオリン	ジネット・ヌヴェー	アルテュール・グリムオー	ヘンリク・シェリング	ナタン・ミルシテイン	アンネ＝ゾフィー・ムター	ギドン・クレーメル	ヴィクトリア・ムローヴァ	ギドン・クレーメル	チョン・キョンファ	ヒラリー・ハーン	リサ・パティアシュヴィリ
性別	女	男	男	男	女	男	女	男	女	女	女
出身国	フランス	ベルギー	ポーランド	ウクライナ	ドイツ	ラトヴィア	ロシア	ラトヴィア	韓国	米国	ジョージア
指揮	イサイ・ドブロウェン	エドゥワルト・ファン・ベイヌム	ベルナルト・ハイティンク	オイゲン・ヨッフム	ヘルベルト・フォン・カラヤン	レナード・バーンスタイン	クラウディオ・アバド	ニコラウス・アーノンクール	サー・サイモン・ラトル	サー・ネヴィル・マリナー	クリスティアン・ティーレマン
管弦楽	フィルハーモニア管弦楽団	アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団	アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団	ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団	ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団	ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団	アカデミー室内管弦楽団	シュターツカペレ・ドレスデン
第1楽章	21:19	21:47	23:10	20:59	22:01	22:05	22:28	21:01	23:30	23:15	21:08
カデンツァ	ヨーゼフ・ヨアヒム作	ヨーゼフ・ヨアヒム作	ヨーゼフ・ヨアヒム作	ナタン・ミルシテイン作	ヨーゼフ・ヨアヒム作	マックス・レーガー作	ヨーゼフ・ヨアヒム作	ジョルジュ・エネスコ作	ヨーゼフ・ヨアヒム作	ヨーゼフ・ヨアヒム作	フェルツォ・ブゾーニ作
第2楽章	9:03	8:43	9:26	8:58	9:42	8:54	8:39	8:13	9:18	9:31	8:49
第3楽章	7:40	7:49	8:32	8:03	8:35	7:21	8:27	7:35	8:26	7:43	7:56
録音年	1946年	1958年	1973年	1974年	1981年	1982年	1992年	1996年	2000年	2001年	2012年
空欄はスタジオ・セッション						ライブ	ライブ	ライブ			
カップリング曲	シベリウス作曲 ヴァイオリン協奏曲 ニ長調	アルト・ラプソディー、ハイドンの主題による変奏曲	なし	クラリネット五重奏曲 口短調 作品115	ヴァイオリンとチェロのための協奏曲 イ短調 作品102	ヴァイオリンとチェロのための協奏曲 イ短調 作品102	なし	ヴァイオリンとチェロのための協奏曲 イ短調 作品102	ベートーヴェン作曲 交響曲第5番 ハ短調	ストラヴィンスキー作曲 ヴァイオリン協奏曲 ニ長調	シューマン作曲 3つのロマンス 作品22 他
録音場所	ロンドン	アムステルダム	アムステルダム	ウィーン	ベルリン	ウィーン	東京	アムステルダム	ウィーン	ロンドン	ドレスデン
ホール	アビーロード・スタジオ	コンセルトヘボウ大ホール	コンセルトヘボウ大ホール	コンツェルトハウス大ホール	フィルハーモニー大ホール	楽友協会大ホール	サントリー・ホール	コンセルトヘボウ大ホール	楽友協会大ホール	リンドハースト・ホール	ルカ教会
レーベル	WARNER CLASSICS	PHILIPS	DECCA	Deutsche Grammophone	Deutsche Grammophone	Deutsche Grammophone	PHILIPS	TELDEC	WARNER CLASSICS	SONY CLASSICS	Deutsche Grammophone
寸評	古いモノラル録音だが状態は良い。カミがなく、素直でクセがない、淡々とした室内楽的な演奏ぶり。	軽やかな明るい音色で聴かせる、しっとりとした昔ながらの名曲。強弱の変化は比較的少なめ。	訥々とした節回しから風格がじんわりとにじみ出る。名曲であることをしみじみと実感できる。	細身の音色が冴えわたり、鋭く妖しい光彩を放つ。ダイナミックで快刀乱麻を断つ趣がある。	重厚なバックに支えられて、熱く頑張る心意気が伝わってくる。技巧的にもほぼ万全である。	スピード感あふれる。安心して音楽の流れに身を任せることができる。歯切れの良い演奏ぶり。	おっとりとした、品の良い、くせのない演奏。オーケストラが重厚に支えており、見事。	予想に反して、やや乾き、引き締まった響きだが、そのない演奏ぶりに身を任せることができる。	ゆったりとしたテンポの中にも気迫がこもった激しい演奏ぶり。風格あふれる演奏。	スポーティなしなやかさ、伸びやかさにあふれる明るい音色。思わず惹き込まれる快感がある。	素直で鋭く伸びやかな演奏ぶり。テクニクも安定していて余裕がある。繊細かつ大胆で聴き応えあり。
カップリングについて	こちららヴァイオリン協奏曲の名曲。聴き応えあり。	ブラームスの名作二曲。いずれも名演。統一感がある。	なし	ブラームス晩年の名作。それなりに統一感がある。	ブラームス晩年の名作。統一感がある。	ブラームス晩年の名作。統一感がある。	なし	ブラームス晩年の名作。統一感がある。	意外性あり。スリムな「運命」が聴けるお徳感がある。	珍しい現代曲。ヒラリー・ハーンの幅広い力量がうかがえる。	シューマンとブラームスのピアノ伴奏による小品、合計4曲を収録。